

★日本外務省、グアイド承認に踏み出さず＝河野外務大臣会見記録

(平成 31 年 2 月 1 日 (金曜日) 17 時 27 分 於：本省会見室) ベネズエラ情勢

【朝日新聞 清宮記者】もう 1 点なのですが、ベネズエラ情勢について、イギリス、フランスなどは、今週末を目処として再選挙の決定をしないと国会議長の方を承認すると表明していますが、日本はそれに歩調を合わせる考えはありますか。あるいは、もっと状況を見守るお考えでしょうか。

【河野外務大臣】状況を見守るという観点から言えば、駐在員あるいはその他の短中長期的にベネズエラにいらっしゃる日本人の方の多くは既に退去された、あるいはその準備をされているというふうに認識をしておりますが、引き続き、ベネズエラ国内にいらっしゃる邦人の保護に関しては、万全の体制をとりたいと思っております。

その中で、我々はベネズエラにおける、大統領選挙が憲法に則ってしっかりと行われたかどうかに関する説明責任が果たされることなく、就任式が強行されたことは大きな問題だというふうに思っております。さらにこのベネズエラから 200 万人を超えるベネズエラ国民が周辺国に逃れなければならないような状況は、極めて問題だと思っております。先般も申し上げましたが、このベネズエラ国民を受け入れている周辺国に対して、日本としてはできることをしっかりとやりながら、関係諸国とこのベネズエラの問題についてどう対応していくか、連携をしていきたいと思っております。我々としては、憲法に則った民主主義が一日も早く回復されることが大切だと思っております